

新生児聴覚検査

生まれて間もない赤ちゃんの耳の聞こえのための検査のことです。

(通常は、出産後3日～1週間頃に検査を受けます。)

聞こえの障がいは目に見えず、新生児聴覚検査を受けない場合、

2歳頃までわからないことが多く、発見が遅れがちになります。

聞こえに障がいがあることに気づかずに入ると、ことばの発達が遅れたり、コミュニケーションがとりにくいなどで支障が起きます。

新生児聴覚検査で、聞こえの障がいを早く見つけ、適切な支援を受けることで、赤ちゃんのことばの発達を促すことができます。



耳の聞こえとことばの発達

ことばの発達には個人差があります。

気になることがあれば、お住まいの保健（福祉）センターにご相談ください。

3～4ヶ月ころ

- ★大きな音に驚きます
- ★声の聞こえた方を見ます
- ★呼びかけに対し、「あ～」「う～」と声を出してこたえます

6～7ヶ月ころ

- ★音のなる方に顔を向けます
- ★声を出して笑います
- ★音のなるおもちゃに興味を持ちます

9～10ヶ月ころ

- ★名前を呼ばれると振り向きます
- ★話している人の口元をじっと見ます
- ★音楽や歌にじっと聞き入ります

3歳ころ

3歳児聴覚検査を受けましょう！

3歳児健診のときに聴覚検査に関するアンケート等が送られますので、記入して健診のときに提出してください



1歳6ヶ月ころ

- ★見えないところからの呼びかけに反応します
- ★テレビの音や音楽などに振り向きます
- ★意味のあることばを3つ以上話します

1歳ころ

- ★音やリズムに合わせて体をゆらします
- ★大人のことばをまねようとします
- ★「マンマ」「ぶーぶー」などのことばが始まっています

